

第7回 国際協力セミナー 報告

持続可能な発展：

時間的、空間的、社会的に異なるものをシームレスにつなげるバランス感覚

講師：

- 飯野福哉氏（国連大学 環境と持続可能な開発プログラム アカデミックプログラムオフィサー）
- 杉浦美希子氏（国連大学 環境と持続可能な開発プログラム パートタイム・コンサルタント）

日時：2007年5月21日（月）16:30～

場所：柏キャンパス 環境棟7階講義室

参加者：18人

今回の説明会案内から：

東京に本部を置く国連大学は、人類の平和と発展という国連の目的に学術面で寄与する国際的学術機関です。「大学」という名称ですが、一般的な意味での大学とは異なり、国連大学の使命とは、国連とその加盟国および国民が関心を寄せる緊急かつ地球規模の問題解決の努力に学術研究と能力育成をもって寄与することです。東京の本部のほか世界各地にある直属の研究・研修機関や既存の大学、研究機関、研究者などとの国際的ネットワークにより活動しています。

今回は、国連大学本部の飯野福哉先生をお招きして、同先生が管轄しておられる研究プロジェクトに関するお話をお伺いします。加えて、本専攻博士課程の修了生である杉浦未希子さんより、国連大学での仕事の経験を話して頂きます。

国連大学は他の国連機関と同様に、インターンの機会を提供しています。しかし、日本人学生からの応募は極めて少ないと飯野先生からは伺っています。今回は、国連大学でのインターンについても、飯野先生からお話を伺います。場所的に最も身近な存在の国連機関である国連大学でのインターンに興味がある学生にとっては、「生の情報」を得ることが出来る貴重な機会です。

プログラム：

16:30～16:35 挨拶および講師紹介（中山幹康）

16:35～17:05 「持続可能な発展 --- 時間的、空間的、社会的に異なるものをシームレスにつなげるバランス感覚---」（飯野福哉氏）

17:05 ~ 17:15 「UNU で働いて得られたもの・見えたもの」(杉浦未希子氏)

17:15 ~ 17:30 質疑応答

17:30 ~ 懇談

飯野氏 発表要旨：



国連大学は日本に唯一本部のある国連機関で、その役割として、国連のコンサルタント、あるいはシンクタンクとしてのものがあります。国連大学は現在 14 の RTC/Ps (研究・研修センター/プログラム) を抱えており、本部では農業の多様性や水域マネージメントなどについての研究を行っています。他に興味内容として、社会との連携を図る意味での CSR パートナーシップ、途上国における研究資金プロポーザル能力の向上、CO₂ の排出と管理 (国連機関で唯一 ISO14000 を取得という責任) あるいは人間行動学を取り入れた予測市場、協力行動への行動内容プロセスなどについてのものがあります。特に重要となるのは持続可能性という考え方ですが、これは時間的、空間的、そして社会的なものをどうつなげるかというバランス感覚にあると思います。

国連大学で学ぶ機会としてはサマースクールやインターン、グローバルセミナーや有料の UNU インターナショナルプログラムなどがあります。

杉浦氏 発表要旨：



私はこの専攻の博士課程在学中に職員として国連大学で働き始め、現在はパートタイムの職員として在籍しております。その経緯というのは、当専攻長の中山幹康教授のアドバイスをいただいた後、直接国連大学と連絡を取り合った上で面接を行い、採用にいたりしました。

国連大学に入る前のイメージとしては、研究者のみの調査機関で、英語のみ使用しピリピリした雰囲気を持ち、他の国連機関と強い連携を持っている、ただ、実際のところ何をしているかわからない、というものでした。しかし、実際に入ってみるとイメージと大きく違い、もちろん調査機関ではあるが、それよりは国連に対するコンサルタント的な、つまり政策に付加価値をあたえ、さらには広告会社会的な役割も果たすところであるということ、そして日本人同士では日本語

も使用するなど、ややマイペースで静かな組織であることなどがわかりました。

国連大学で働くメリットとしては、マネジメント能力の開発、発展ができることの他に、国際機関で働くための情報に近いことが挙げられます。

最後に、国際協力学専攻で学んだ意義として今になって気づいたことは、将来を決める上で二つの選択肢を持てるということです。つまり、今後学術研究を進めるのか、それともマネジメントをしていくのかということで、マネジメントとはつまり、人柄と柔軟性であり、一つのプロセスによらないものです。



質疑応答

国連・国連大学について

Q. 唯一の機関である UNU どのようなビジョンで活動を行っていますか？

また、国連機関に属するというときの価値観とはどういったものですか？

A. 国連については、紛争解決といったものもあるが、やはりミレニアム開発目標を達成することが至上命題。しかしながら、ポスト MDGs についての議論が進んでいるとはいえ、これから方向性を明確にしていく必要がある。

UNU に関してはそのシンクタンク的な位置づけとして、科学技術、平和とガバナンスなどについて、可能な限り他より先行して調査等を行うことが理想。例えば 2010 年までのビジョンを想定しながらの活動が必要となるが、現在のところ長期的な研究戦略を具現できていない。

(飯野氏)個人的には楽しく仕事をする事ができている。大学の自治が認知されており、かなりの自由度を持つため、次に向けた 1 歩を踏み出すことができる。

Q. 研究プロジェクトの内容は？ 研究員は何名くらい？

A. 内容としては、農業の多様性、水質汚染、防災(洪水、ブータンにおける天気予報)、化学物質の分析・管理・マネジメント、これらに関する調査・サーベイなど、多岐にわたる。いずれの場合も、可能な限りサイエンティフィックな手法を用いていきたい。

(研究員の数等についてはサイトを参照)

インターンについて

Q. 国内で行われるのか。

A. はい、原則国内で行われます。

Q. UNU で集中的にやるのか。

A. はい。

Q. 内容は？

A. (例えば) CSR に関するレポートを読み、それらについてのレビューを作成した後、企業とどのような連関の基にプロモートを行うかについて考察する。(これについては、企業とのパートナーシップ探るといった作業となる)

また、イベントやミーティングがある場合、その手伝いも行う。

しかし、インターンへはただ受身ではなく、やりたいことをもって参加してほしい。

(杉浦氏) UNU と風土として話し合いながら方向性を決めていくというものがある。アイデアを提示してそれを煮詰めていくような形でインターンをスタートさせる。

参加者の感想から：

- ・ フィールドで活動している UN 機関とはだいぶ違うという印象を受けました。機会があれば応募したいと思います。(M1)
- ・ 飯野先生のご発表、久しぶりに拝聴し、改めて先生のお考えになっていること、仕事内容はやはり興味深い!! と思いました。国環研・循環センターという“縛り”から解放され大学という自由な環境に移りましたので、是非何か研究をご一緒させて頂ければと思っています。(PD)
- ・ 予測市場と経験誘発法の話はとても興味深く面白かったです。本日は貴重なお話ありがとうございました。(PD)
- ・ UN で働いてみたいという気持ちが強くなりました。その際、UNU で研究員という選択肢もあるのかな、と考えてみました。(M1)
- ・ 現場の声が聞けてよかったです。(D1)
- ・ 失礼な話ですが、UNU についてまったく知識を有していなかったもので、すべての情報が新鮮で。特に、新しいアイデアを出し合いながら物事を進めていく部分は魅力的でした。これから、他の国連機関との連携を強めていければいいのではないかと思います。(M1)
- ・ 考え方の話が聞けて関心を持ちました。(D1)
- ・ 知らない話ばかりで、とても興味深かったです。もし機会があるのなら、「by chance」を意図的に作り出すことをいかにして環境プロジェクトへの住民参加に利用するかということについてお話をうかがいたいです。(M1)
- ・ 遅れて出席したこと申し訳ないです。杉浦さんの具体的な話が聞けてよかったです。(D1)
- ・ 国際機関で働くことのイメージを少し身近に感じることができて楽しかったです。(M1)
- ・ インターンシップの情報を、web ページでも見ていたが、語学以外の面でも敷居が高そうだったので、応募を見合わせていましたが、大分イメージがかたまった。国連大学の全体像については、まだぼやけたところが多いのだが、少し調べてみたい。(M1)
- ・ ご紹介をしてくださって、「国連大学」に対するイメージはだいぶ変わりました。インターンしてみようという気持ちになってきました。もし、自分の趣味と合う研究内容があれば、是非応募してみたいと思っています。(M1)

感想のまとめ：

国連大学について話を聞くことができ、その理念・実態についての知見を深めることができ、大変有意義であった。また、国連機関の職員の方の話を聞くことができ、そういった場を自分の活躍のフィールドとしてイメージすることができるようになった。今後のインターンの候補の一つとして考えたいと思う。具体的な研究テーマや、手法について興味を持つ学生もいた。

議事録担当：池之上志門（M1）